

令和7年度 評価計画及び自己評価(案)

(計画・中間・最終)

白岳中学校区 校番 3 学校名 呉市立白岳小学校

a 学校教育目標	夢や目標に向かって粘り強く頑張る児童を育てる —夢や目標への自律的挑戦—	b 経営理念 ミッション・ビジョン	(ミッション)(学校の使命)変化が激しい社会の中で、他者と協働しながら課題を解決していく力を備えた児童を育成し、地域に貢献する。 (ビジョン)(将来の学校像)学校と地域が両輪となり、児童が目標に向かって安心して学び、自分達の夢や目標に向かって挑戦できる学校を目指す。
----------	---	----------------------	--

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	現状 学力や体力は概ね身に付いているが、傾向としては二極化している。また、自分の意見や考えを他者に伝えるための表現力にも課題がある。 重点 1 主体的・対話的な学びを通して、児童が知識・技能を習得し、それらを思考・判断・表現しながら深めていけるような「学び合い」を大切に授業づくりを進めていく。 2 児童が自己有用感・自尊感情を高めることができるよう、児童の活躍の場を設定し、キャリア教育を充実させる。 3 防災教育の深化を図り、自分の命は自分で守る力を育成する。
------------------------------	---

育成を目指す資質・能力	知識・技能 思考力・判断力・表現力 学びに向かう力・人間性
-------------	-------------------------------

評価計画(中期経営目標を設定してから①・②・③年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策(こんなことをして達成します)	g 指標(効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
** * 確かな学力	主体的・対話的な学びを通して、児童が知識・技能を習得し、それらを思考・判断・表現しながら深める。	④ 児童が主体的に学ぶ授業づくりを行う。	互いの考えを深め合う場面を効果的に取り入れ、「学び合い」を大切に、対話的な授業づくりを進める。	自分の考えを友達に伝えたりまとめたりすることができる児童の割合(児童アンケート)	85%						
		主体的に学習できる児童を育てるために授業と家庭学習の連動を図り、学習習慣づくりをする。	タブレットのAI教材も活用しながら、10分×学年+10分以上の家庭学習の定着を図る。	学年に応じた家庭学習時間の平日の達成率(児童アンケート)	90%						
			「学び方5」を通して学び方を改善させ、授業時や家庭学習の主体的な学びを充実させる。	「学び方5」を意識して学習に取り組んでいる児童の割合(児童アンケート)	85%						
** 豊かな心	児童の活躍の場とキャリア教育の充実により、自己有用感・自尊感情を高める。	互いを認め合い、児童一人一人が活躍できる学校・学級集団づくりを推進する。	学校行事や児童会行事等で、各委員会や児童一人一人が主体となって活躍する場を設定する。 よりよい学級集団づくり及び異年齢集団活動を通して、児童の主体的な活動を促す。客観的なデータを用いて個々の状況把握に努める。	学校行事に満足している児童の割合(児童アンケート) 学級に満足している児童の割合(Hyper-QUのデータ)	90% 85%						
		④ キャリア教育を充実させ、夢や目標をもつ児童を育成する。	地域や中学生、校外の専門職の方から学ぶ機会をつくる。キャリアログに自己の振り返りを記録させたり、キャリアファイルに自己の成長を残したりすることで、児童の自己有用感・自尊感情を高める。	将来の夢や目標をもって児童の割合(児童アンケート)	90%						
* 健やかな体	基本的な生活習慣の確立と体力の向上を図る。	「早寝・早起き・朝ごはん」の定着を図る。	栄養教諭や給食委員会の活動、保護者参加の試食会などを活用し、食生活や生活リズム改善の啓発を行う。	朝ごはんを毎朝食べている児童の割合(児童アンケート・保護者アンケート)	100%						
		④ 体力(走力・持久力・投力)の向上を図る。	体育科の授業等での補強運動を充実させ、小中で連携して重点種目に取り組む。呉チャレンジマッチの取組を充実させる。	運動やスポーツが好きな児童の割合(全国体力・運動能力、運動習慣調査)	90%						
		④ 防災教育の深化を図る。	白岳中学校区の防災の日を活用し、避難訓練等防災教育の内容を深化させる。	災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している児童の割合(児童アンケート)	95%						
業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境を整備する。	児童と向き合う時間の確保	会議時間の短縮 学年・分掌業務の割り振り	児童と向き合う時間が確保されていると感じる教職員の割合(教職員アンケート)	80%						
		長時間勤務の削減	効果的な役割分担による業務の効率化 退校時間の設定と徹底	時間外勤務が月45時間を超える教職員の割合	30%未満						
いじめの防止	安全・安心な学校風土の醸成を図る。	いじめや暴力行為等を許さない学校環境づくりを推進する。	いじめ撲滅キャンペーン中に生徒会執行部主体の活動を実施する。	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思える児童の割合(児童アンケート)	90%						

【k:評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60